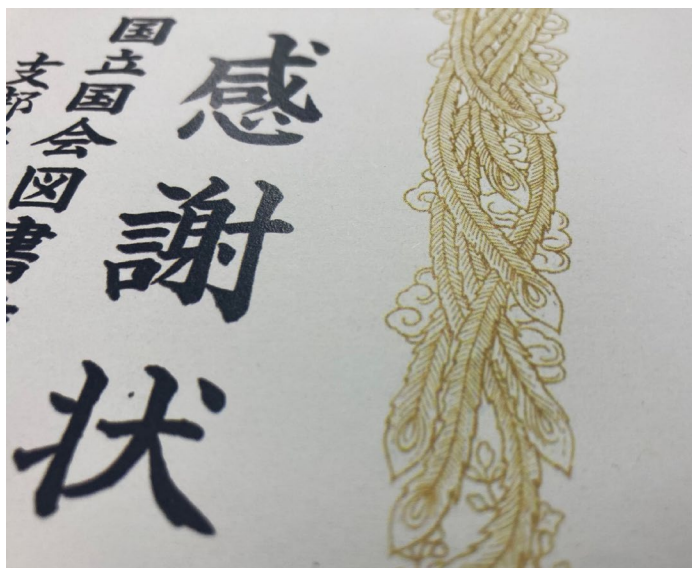
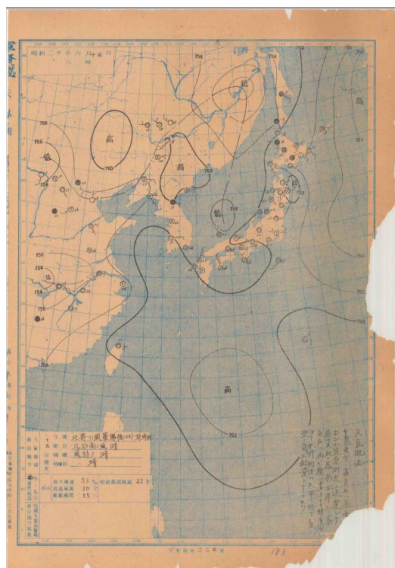


行政・司法各部門の支部図書館と専門図書館の連絡情報誌

びぶろす—Biblos

97号（令和5年12月）

中央館と支部図書館 最近の動き



表紙画像：

（上）文化庁分館の現況

（左下）昭和 20（1945）年 8 月 15 日の天気図

（右下）感謝状イメージ画像

97号（令和5年12月） 目次

『びぶろす』97号刊行にあたって	2
------------------	---

+++++

支部文部科学省図書館の文化庁分館設置について	
支部文部科学省図書館文化庁分館 田中 康成	3

感謝状受贈記念 座談会	
支部農林水産省図書館 牧野 幸子	
加藤 友江	
国立国会図書館総務部支部図書館・協力課	5

（お知らせ）支部気象庁図書館所蔵天気図のデジタルデータを国立国会図書館デジタルコレクションで公開	
	11

（お知らせ）「国立国会図書館オンライン」及び「国立国会図書館サーチ」の統合・リニューアル	
	13

（イベント案内）令和5年度東日本大震災アーカイブシンポジウム―震災遺産と地域文化の継承を目指して―	
---	--

+++++

『びぶろす』97号刊行にあたって

『びぶろす』97号では、国立国会図書館中央館と支部図書館の、最近の主な動きをご紹介します。

令和5(2023)年4月に、支部文部科学省図書館の文化庁分館が、京都市に設置されました。文化庁の多くの部署が同時期に京都市に移転したことに伴うもので、関西に支部図書館・同分館が設置されるのは、これが初めてのことです。

9月には、支部図書館に10年以上勤務し、支部図書館の向上発展に寄与した4名の支部図書館職員の方に、国立国会図書館長から感謝状を贈呈しました。このうちお二方に、支部図書館における勤務で感じたこと、考えたこと等をお話いただきました。

このほか、支部気象庁図書館から国立国会図書館中央館にご提供いただいた、明治16(1883)年3月から令和4(2022)年9月までの約140年分の天気図のデジタルデータが、国立国会図書館デジタルコレクションで誰でも手続きなしで見られるようになったことや、令和6(2024)年1月に公開予定の新しい「国立国会図書館サーチ」についても、ご案内しています。

今号が、国立国会図書館の支部図書館に関心をお持ちの方のご参考になり、また、そうでない方には支部図書館を知っていただくきっかけになれば幸いです。

(編集担当)

【支部図書館分館の新設】

支部文部科学省図書館の文化庁分館設置 について

支部文部科学省図書館文化庁分館 田中 康成

令和 5（2023）年 4 月 1 日付で、支部文部科学省図書館文化庁分館（以下「文化庁分館」という。）が、国立国会図書館の支部図書館・分館としては初めて、京都市に設置されました。

文化庁には、文化財調査官という文化財行政の専門家がおり、彼らは、文化財の指定、選定、登録等（以下「指定等」という。）を行うとともに、指定等された文化財を後生に残すため、所有者や市町村への管理及び修理の指導、文化財である土地・建物の公有化に対する市町村への補助、現状変更等の規制、輸出の制限等を行っています。また、文化財の活用のため、所有者や市町村に対し、文化財公開の指示、命令・勧告等を行っています。

そして、それらの知見を生かして、国会質問への対応、国会議員からの問合せに対する回答を行っていますが、東京で勤務していた時には、支部文部科学省図書館及び国立国会図書館を活用して、それらに対応しておりました。

しかしながら、文化庁の多くの部署（文化財部門を含む。）が京都に移転することになり¹、これまでどおり支部文部科学省図書館を経由して国立国会図書館及び他の支部図書館を利用することができなくなるため、庁内で今後の業務に必要な資料の整備等の在り方を検討する図書会議を令和 3 年に立ち上げ、京都庁舎に文化庁図書室を設置し、それを国立国会図書館の支部図書館分館とするための方法等を検討してきました。

京都移転後に利用できる国立国会図書館のサービスについても、①分館とならなくても（個人でも）受けられるサービス、②分館になることで（文化庁図書室で）受けられるサービス、③分館でも受けられないサービスに分けて検討を行い、大方、業務を遂行するに問題ないことを確認しました。その上で、文化庁図書室を支部文部科学省図書館の分館とすべく、申請の手続きを行いました。

文化庁分館は、そのような経緯で設立しましたので、主に京都に移転してきた文化財調査官の業務を支えるため、文化財分野を中心に約 6 千冊を所蔵しており、その広さはおよそ 140 m²です。京都に赴任してきた職員が必要とする資料は幅広く、文化庁分館の資料のほか、京都府内の公立図書館や大学図書館、国立国会図書館関西館の資料を閲覧しに行くことや、図書館間貸出しを利用することも想定しています。

* 本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2023 年 11 月 10 日である。

¹ 京都市に移転した部署、京都庁舎の所在地等は、以下を参照。

“文化庁の組織”．文化庁. <https://www.bunka.go.jp/bunkacho/soshiki/>..

“文化庁案内図”．文化庁. <https://www.bunka.go.jp/bunkacho/annaizu/>..



写真 1 文化庁分館の現況

文化庁分館では、これまで文化庁の各課で所蔵していた図書の内、全体で使えるものを抽出して所蔵することにしましたので、移転作業には苦労がありました。一番問題となったのは、当初、文化庁分館に送られてくる予定の段ボールが届かなかったり、逆に、文化庁分館では所蔵予定のなかった図書が届いたりしたことで、それらの整理だけでも時間を要しました。その他、図書館でデータベースを閲覧するためのパソコン端末設置、資料の分類作業等、資料の移転作業は令和 5 年 4 月から開始され、すでに半年ほどが経ちましたが、まだ、完了していません。

文化庁分館は、一般公開していないため、普段多くの皆様の目に触れる機会はありませんが、これからも日本の文化行政に資するため、また、唯一京都に存在する行政府の支部図書館として運営してまいります。

(たなか やすなり)

【令和5年度 支部図書館職員への感謝状贈呈】

感謝状受贈記念 座談会

支部農林水産省図書館 牧野 幸子
加藤 友江
国立国会図書館総務部支部図書館・協力課

令和5（2023）年9月7日、支部図書館に10年以上勤務し、支部図書館の向上発展に寄与した以下の支部図書館職員に、国立国会図書館長から感謝状を贈呈した。

支部宮内庁図書館	平山 貴子
支部農林水産省図書館	牧野 幸子
同	加藤 友江
支部農林水産省図書館農林水産技術会議事務局つくば分館	相川美由紀

本稿は、同日に、支部農林水産省図書館の牧野氏及び加藤氏からお話いただいた内容を、御本人の了承を得て、国立国会図書館総務部支部図書館・協力課（以下「支協課」という。）が要約したものである。

はじめに

支協課

牧野さん、加藤さん、このたびはお時間を頂きありがとうございます。

本日、国立国会図書館長から感謝状を受けられました。この機会に、お二方から、合計10年以上の支部図書館での勤務を振り返っていただきながら、いろいろとお話をお伺いできればと思います。

1 図書館に配属された時のこと

支協課 最初に、支部図書館に初めて配属された時のことをお伺いいたします。

牧野さんが最初に配属されたのが平成3（1991）年、加藤さんは平成13（2001）年ですが、配属された時の率直な感想はいかがでしたか。

牧野 私は、高校卒業後、平成3年に農林水産省に入省し、最初の配属先が図書館でした。

正直なところ、配属されるまで各省庁に図書館があることは全く知りませんでした。また、国立国会図書館の存在も、配属後に初めて知りました。

支協課 もともと近所の図書館をよく利用していたなど、図書館自体への親しみはありましたか。

牧野 そうですね。もともと本は比較的好きな方でしたが、基本的には、図書館を使うよりも、自分で購入して読むことが多かったです。

ただ、漠然と、図書館の仕事はたぶん合うだろうな、という感覚はありました。だから配属された後も、特に違和感なく仕事をできた気がします。

加藤 小学校、中学校、高校で図書委員をやっていたまして、本は好きでした。国立国会図書館のことは知っていました。

私も高校卒業後、平成4（1992）年に農林水産省に入省しました。牧野さんの1年後輩です。

入省後に省内に図書館があることを知り、そこへの配属を希望しました。平成13年に、9年越しの希望が叶い、図書館に配属されました。通常3年程度で異動があるため、もちろん図書館以外の部署にも在籍しましたが、その際には、また図書館業務への配属希望を出していました。

支協課 それほど図書館の仕事が合っていたんですね。

加藤 そういうわけで、現在、4回目の図書館勤務になります。

牧野 私も同じで、現在4回目の図書館勤務です。2～3年で異動はありますが、異動先では、毎回、図書館への配属希望を出していました。

支協課 加藤さんは、学校図書館や街の図書館のイメージはあったと思いますが、職場の図書館は、それとは少し違うかと思います。それでも、図書館の仕事に戻りたいと思われたんですね。

加藤 私の場合、分野を問わず、本が、本というものが好きなので、図書館という本に囲まれた場所で、本に触れる仕事が好きですね。

ただ、現在の係は図書館をいかに使ってもらうかを考えて動く仕事のため、あまり本の現物に触れる機会がありません。利用を増やすためにいろいろ取り組みたいと思います。

支協課 お二方とも、本当に図書館や本というものに愛着や関心があって、合計10年以上、4回にわたり図書館で仕事をされてきたんですね。

2 図書館での経験が他部署で役に立ったこと

支協課 図書館と他の部署を両方経験されましたが、図書館以外の部署において、図書館での経験があったから役に立ったこと、気づいたことはありましたか。

牧野 そうですね……。職場の少し離れた席から「この本を見たいけれど、図書館にあるのかな？」といった会話が聞こえてきたら、図書館の利用方法や、図書館にある資料の探し方などを簡単に教えて、詳しくは図書館に聞いてみては、と声をかけていました。

支協課 職員の中には、図書館にある資料やその使い方を知らない人もいるのでしょうか。

牧野 たくさんいますね。勤め始めてから何年か経ってる人でも、図書館はこんなところにあったんだ、使えるんだ、と言う方がいます。逆に、省内の図書館は知らないけど、国会図書館は使ったことがある、という方もいます。

支協課 加藤さんはいかがでしょう。

加藤 農林水産統計を担当する部署では、データを取りまとめて資料として刊行しますが、その際に、誤りがあってはいけない、もし誤りがあった場合は正誤表を早く出そう、という意識を持っていました。それは、図書館で資料を利用提供していた経験から、統計資料を信頼して使っている人が多くいることを認識していたからです。

現在では、ホームページで多くの統計を公開していますが、正誤表も含めて冊子に載っている情報と内容が異なっていないか、という点も注意しています。情報の正確さや新しさには敏感になったと思います。

支協課 情報がどのように集められて形になるか、また、それがどのように利用されているか、という一連の流れをご存知なわけですね。それは大きなアドバンテージになると思います。

3 他部署での経験が図書館で役に立ったこと、図書館についての気づき

支協課 では逆に、他部署での経験があったから図書館での仕事に役立ったこと、図書館のサービスや運営について気づいたことはあるでしょうか。

牧野 図書館で所蔵している雑誌などに欠号があった場合、「あ、この雑誌は、あの課の書棚にあった」と気づいて、その課に行って「もし不要であれば図書館に移管してください、あるいは少しの間貸してください。」とお願いしたことがあります。

支協課 ナイスキャッチですね。

加藤 各部署では、よく使う資料を定期購読して事務用資料として置いていますが、少し古い時期のものは捨ててしまうことがあるので、「捨てる場合は、その前に図書館に一声かけて」とお願いしています。

牧野 やはりいろいろな課を異動で回ってきているので、どの課でどのタイトルを定期購読しているかということは、記憶に残っています。それを、図書館の資料充実のために役立てたりしていました。

支協課 ほかに何かありますか。

加藤 私は、今年の3月まで省全体の広報担当部署にいました。図書館があるということについて省内でいろいろと広報しているにもかかわらず、知られていないから使われてない、という場合が多いことを、改めて感じました。

図書館は、外からどのように見えているのだろう、どう発信すれば皆さんにもっと知ってもらえるのだろう、と考えるようになりました。

なお、農林水産省図書館は、一般の方も利用できますが、研究者や学生さんのほうが、図書館のことをよくご存知な印象です。

支協課 ちなみに、農林水産省の BUZZ MAFF（ばずまふ）¹は、時々見えています。省内の図書館を探検する動画もありましたね²。

加藤 ご視聴いただきありがとうございます。広報媒体のうち、BUZZ MAFF は大臣直轄のため、通常の確認プロセスとは異なり、広報室長が内容を了解すれば、動画を掲載することができます。



写真1 農林水産省図書館の入口

4 配属当初と現在とで変わったこと、変わらないこと

支協課 配属当初と現在とを比べてみて、仕事のやり方や組織のあり方、あるいは個人的な関心など、変化したこと、逆に変化していないことについて、お気づきの点がありましたら教えてください。

牧野 入省した頃は、小型邦文タイプライターで、一文字ずつガッシャングッシャと打ちこんで、目録カードを作っていました。その年の秋頃に、図書館の最初のシステムが導入されて、邦

* 本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2023年11月10日である。

¹ BUZZ MAFF（ばずまふ）は、農林水産省職員自らが、省公式 YouTube チャンネルで YouTuber となるなどして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクトである。<https://www.maff.go.jp/j/pr/buzzmaff/>
<https://www.youtube.com/@BUZZMAFF/about>

² 【農水省】秘密の地下室に潜入してみた。 TASOGARE
<https://www.youtube.com/watch?v=UCHoHkwR6J4>

文タイプで目録カードを作るのと並行して、システムにその情報を入力していきました。

当時は、このように入力したデータが、いずれ図書館の蔵書検索として使えれば便利になるよね、という話をしていました。

その後、他部署に異動して、図書館に戻ってくるたびに、システムに入力しているデータの量が増え、仕事のシステム化が進んでいました。システムも、当初は蔵書検索だけだったかと思いますが、その後、購入リクエストなど様々な機能が追加されました。

加藤 私は、邦文タイプは見たことがありません。配属された平成 13 年には、OPAC（オンライン蔵書目録）がありました。

あと、当時は、図書館の職員は 20 人ぐらい、一つの係には 2～3 人いましたが、その後徐々に人が減っていきました。これも、大きな変化だと思います。

支協課 職場環境が変化していくなかで、自分の考え方や関心に変化はありましたか。

牧野 勤め始めてから、じっと座って仕事をするのはあまり向いていないことが、だんだん分かってきました。図書館の仕事は楽しそう、と思っている人がいると思いますが、図書館の資料を運搬し、排架する作業は、肉体労働です。これは、どれだけ業務がシステム化されても変わらない部分だと思います。こういう作業も含めて、図書館の仕事が好きなのだと思います。

支協課 牧野さんご自身の仕事の好みやペースは、30 年間あまり変わらなかったわけですね。加藤さんはいかがですか。

加藤 私自身も大きな変化はないですね。ちなみに、私が経験したのは、統計、庶務、広報、図書館という感じで、勤続年数の約 3 分の 1 を図書館で過ごしています。牧野さんも同じですが、このように長い期間、図書館で勤務する人は、省内では珍しいと思います。

おわりに

支協課 最後に、支部図書館での勤務を踏まえて、中央館や他の支部図書館、あるいはご所属の図書館に対して、何かメッセージがあればお願いいたします。

加藤 メッセージではありませんが、以前から、あったら嬉しいなと思っていることがあります。

支協課 何でしょう？

加藤 支部図書館の間で人事交流ができて、1～2 年程度、もう少し短期間でもいいので、他省庁の支部図書館の仕事を経験できればいいなと思っています。

また、中央館に出向きたらいいな、とも思います。他の図書館の資料や仕事を知ることができたらとても刺激になると思いますが、なかなか難しいと聞いています。

支協課 中央館の職員も、支部図書館に配属されることは、まずありません。中央館と支部図書館の職員が、双方の仕事を経験できれば、相互の理解や協力がより深められるだろうな、と思い

ます。

以前に、支部図書館での勤務経験がある省庁の方が、中央館に出向で来られていた記憶があります。

加藤 機会があればいいなと考えます。

支協課 牧野さん、加藤さん、本日は、打ち解けてお話いただきありがとうございました。

お二方とも、図書館への深い愛着と関心を持って、長い間仕事をされてきたことがよくわかりました。とても貴重で有難いことだと思いました。今度もどうぞよろしくお願いいたします。

牧野 加藤 ありがとうございました。

(まきの さちこ)

(かとう ともえ)

(こくりつこっかいとしょかん そうむぶ しぶとしょかん・きょうりよくか)

(お知らせ)

支部気象庁図書館所蔵天気図のデジタルデータを 国立国会図書館デジタルコレクションで公開

国立国会図書館では、中央館が所蔵していない入手困難資料について、支部図書館、公共図書館等からデジタル化データの形式で収集、保存し、国立国会図書館デジタルコレクションで利用提供する事業を行っています。

令和 5 (2023) 年 8 月下旬に、支部気象庁図書館から中央館に御提供いただいた、約 3,600 点の天気図のデジタルデータを、国立国会図書館デジタルコレクションでインターネット公開しました。

これにより、明治 16 (1883) 年 3 月から令和 4 (2022) 年 9 月までに気象庁（及びその前身機関）が発行した約 140 年分の天気図が、インターネットを通じて、どなたでも手続きなしで御覧いただけるようになりました。

天気図【全号まとめ】¹ <https://dl.ndl.go.jp/pid/12896309>

【支部気象庁図書館からの御案内】

天気図は、観測データを基に大気の状態、気象状況を図化したものです。いわば空の地図とも言えるでしょう。現在は、気象衛星、海洋、レーダーなど様々なデータを利用して防災、天気予報を行っています。天気図は今でも重要な資料の一つです。

自分あるいは家族の誕生日や記念日、歴史的な出来事があった日の天気図をデジタルコレクションから探し出して眺めて観るのもおもしろいかもしれません。今年の夏は全国各地で酷暑が報じられましたが、100 年前の 8 月と近年の 8 月を比べたりすると、何か違いがあるかもしれません。

デジタルコレクションに収録された天気図は、夏休みの宿題、学校のレポート、学術的な調査・研究まで幅広く利用できます。

(天気図の一例)

昭和 20 (1945) 年 8 月 15 日及び 16 日の、天気図及び各地観測表の一部です²。

両日の各地観測表を見比べると、8 月 16 日には、データが掲載されている地点がほぼ北海道・本州・四国・九州に限られています。

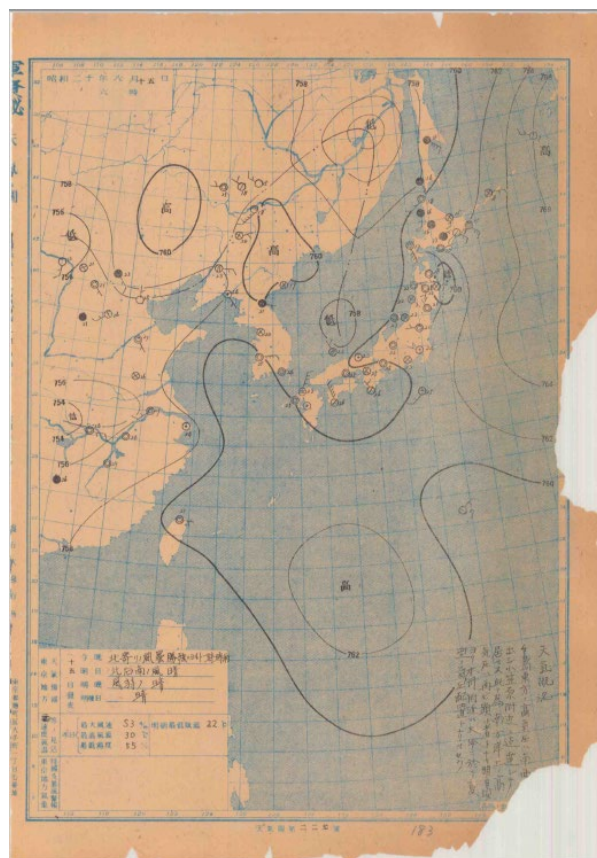
* 本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2023 年 11 月 10 日である。

¹ 国立国会図書館デジタルコレクションの以下のページからも閲覧可能。

他機関デジタル化資料 > 気象庁図書館 <https://dl.ndl.go.jp/collections/A00186?pageNum=0>

² 『天気図』昭和 20 年 8 月、中央气象台、1945-08. 国立国会図書館デジタルコレクション（データ提供：気象庁図書館）<https://dl.ndl.go.jp/pid/12897058> から一部転載した。

昭和 20 (1945) 年 8 月 15 日

[illegible]

昭和 20 (1945) 年 8 月 16 日

[illegible]

(お知らせ)

「国立国会図書館オンライン」及び「国立国会図書館サーチ」の統合・リニューアル

国立国会図書館では、現在提供している「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（国立国会図書館オンライン）」及び「国立国会図書館サーチ」を統合・リニューアルし、令和 6 (2024) 年 1 月に新たなウェブサービス「国立国会図書館サーチ」として公開予定です。

1 新しい国立国会図書館サーチ



図 1 新しい国立国会図書館サーチのトップ画面
(開発中の画面のため、変更になる場合があります)

今回のリニューアルにより、国立国会図書館の資料やデジタルコンテンツの検索と各種サービスの申込みができるほか、都道府県立図書館及び政令指定都市立図書館が所蔵する和図書の書誌・所在情報の検索、その他全国の公共・大学・専門図書館や学術研究機関等が提供する資料やデジタルコンテンツの検索が、一つのウェブサービス上で行えるようになります。

また、タイトルやキーワードなどによる検索結果に、関連する調べものに役立つ情報をあわせて表示します。「リサーチ・ナビ」や「レファレンス協同データベース」で提供するレファレンス情報を通じて、「知りたい」情報へ、より効率よく、幅広くアクセスできるようサポートします。

詳しくは、国立国会図書館ホームページの以下のページをご覧ください。

▽新「国立国会図書館サーチ」 <https://www.ndl.go.jp/jp/use/2024renewal/01.html>

* 本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2023 年 12 月 5 日である。

2 新しい「国立国会図書館サーチ」における全国書誌データ等の提供について

新しい「国立国会図書館サーチ」では、全国書誌データ（国立国会図書館が収集した国内出版物および外国で刊行された日本語出版物の標準的な書誌データ）など、国立国会図書館の書誌データをより利活用しやすい形で提供します。

書誌データのダウンロード機能を拡充し、MARC 形式、MARC タグ形式等のデータ形式で、書誌詳細画面から 1 件ずつおよび検索結果一覧画面から複数件まとめたダウンロードが可能になります。

また、全国書誌データに絞って検索してダウンロードできる「全国書誌データ検索」など、特定の範囲の書誌データに絞った検索画面を新設します。

なお、API 機能の一部変更、一部の RSS 配信の終了があります。

詳しい情報は、以下のページでご確認ください。

▽全国書誌データ等の提供 <https://www.ndl.go.jp/jp/use/2024renewal/02.html>



図 2 全国書誌データ検索画面
(開発中の画面のため、変更になる場合があります)

3 システムリニューアルに伴うサービス休止について

システムの切替えに伴い、令和 5（2023）年 12 月 27 日（水）午後 7 時から令和 6 年 1 月 4 日（木）までの間、国立国会図書館オンライン及び国立国会図書館サーチへのログインを要するサービスの申込み等を休止します。

▽サービスの休止に関するお知らせ（2023 年 12 月 27 日～2024 年 1 月 4 日）

https://www.ndl.go.jp/jp/news/maintenance.html#20231020_1000

システム切替え全般の詳細については、以下のページでご案内しています。

▽「国立国会図書館オンライン」及び「国立国会図書館サーチ」の統合・リニューアル

<https://www.ndl.go.jp/jp/use/2024renewal/>

なお、行政・司法各部門の職員の皆様へのサービスについては、中央館・支部図書館総合システムでご案内しています（政府共通ネットワークを通じてご覧になれます）。

令和5年度 東日本大震災アーカイブシンポジウム —震災遺産と地域文化の継承を目指して—

2024年1月8日(月・祝) 13時から16時まで(開場:12時30分)

定員: 会場**120**名・オンライン**300**名(先着申込み順、要事前登録)

※オンラインLIVE配信(Zoom使用)

会場: 東北大学災害科学国際研究所(仙台市青葉区荒巻字青葉468-1)

参加
無料

プログラム(敬称略)

事例報告

「震災後収集資料の整理・活用における現状と課題」

大熊町教育委員会 教育総務課 副主任学芸員 芋坪 祐樹

「とみおかアーカイブ・ミュージアムの歴史資料と震災遺産の保存活用」

富岡町教育委員会 生涯学習課 課長補佐 三瓶 秀文

「震災遺構浪江町立請戸小学校が伝えたいこと、今後の課題について」

浪江町教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育係 主査 渡邊 祐典

「双葉町における震災資料保全の取り組みについて」

双葉町総務課長 兼 秘書広報課長 橋本 靖治

進捗報告

「これからのアーカイブに望むこと—ポータルサイト「ひなぎく」の経験から—」

国立国会図書館電子情報部主任司書 井上 佐知子

「震災アーカイブの意義について—みちのく震録伝の経験から—」

東北大学災害科学国際研究所准教授 柴山 明寛

パネルディスカッション

「震災遺産と地域文化の継承を目指すなかでの課題について」

進行
パネリスト

柴山 明寛
上記報告者全員

申込み・参加方法

「みちのく震録伝」のシンポジウム案内にある「参加申込みフォーム」からお申込みください。

※定員に達した時点で受付を終了します。

「みちのく震録伝」(右のQRコードからもアクセスできます)

<https://www.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/symposium/20240108/>



問合せ先

東北大学災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野

電話 022-752-2099 メールアドレス archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

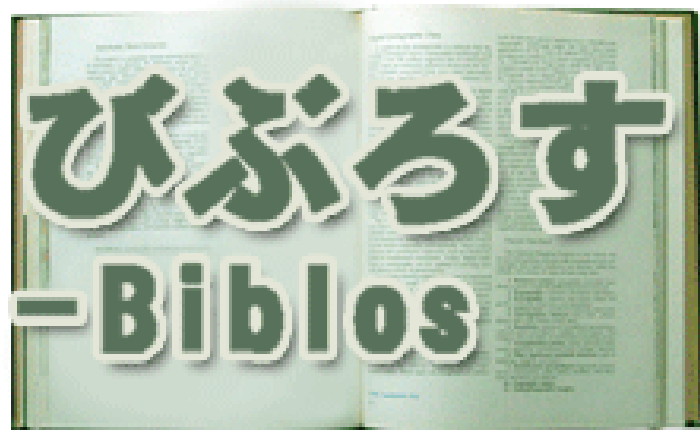
主催: 東北大学災害科学国際研究所・国立国会図書館

後援: デジタルアーカイブ学会



国立国会図書館
National Diet Library, Japan





97号

令和5（2023）年12月

発行 / 国立国会図書館総務部

I S S N : 1 3 4 4 - 8 4 1 2

web版もご活用ください

<https://www.ndl.go.jp/jp/publication/biblos/>

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan